

国語プリント No. ()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

スピーチ ～顔を上げて話す～

【目的】

日本人はスピーチが下手だとよく言われる。それはなぜか。アメリカにはスピーチの授業があるという。しかし日本にはあまりない。結局訓練をしているかしていないかということである。複数の人に物事を伝える手段で最も簡単なものは、話することだろう。この単元では話によって物事を上手に伝えることを学習する。

【原因理由】

しかし多くの人は人前で話をするのが苦手だという。苦手意識もあって、上手にならないし、物事が伝わらない。それではどんなところに気を付ければ、上手に伝わり、苦手意識がなくなるのか。問題は形式張ったところで話すときにあがつてしまうということだ。「スピーチ」となると普段顔見知りの人相手に話すだけでもあがつてしまう。いわんや見知らぬ人をやである。なぜ見知った人の前でも緊張するのか？その一つの理由に「視線」がある。普段の会話を相手の目をじっと見ながらしている人はあまりいない。顔を見ているようで、目をそらしながら絶妙の割合で会話をしている。しかしスピーチとなると、聞いている人全員が自分を見ている。それで緊張してしまうのだ。

【実践】「進路について思う事」or「私の理想とする職業人」
制限時間二分間（100秒）130秒におさめること

メモ

「これから」

一点目

二点目

三点目

「以上で」

ありがとうございました。

【対策】

視線に慣れる！

があっても、聞いている人に悪印象を与え、うまく伝わらなくなってしまう。

これだけです。自分のことを見ているということは、関心がある証拠です。せっかく見ているのだから、堂々とスピーチしましょう。

【方法】

話すことを作文しない。ラベル（ポイント）やアウトラインだけをメモする。（話すことを忘れたら、メモにあるラベルだけを見て思い出し、他は必ず顔を上げる。）
一つの文を10秒以内に作る。（長い文話そうとすると、必ず文頭と文末のつじつまが合わなくなり。なるべく短い文にしましょう。）
ナンバリングとラベリングを使う。

聞いている人は、手を顔のあたりまで挙げ、「自分に視線を合わせたな。」と思ったら、手を下げます。こうすることで全員に一度は視線を合わせることで、視線に慣れる訓練になります。

【技術】

始まりと終わりを示す。「これから」を話します。「以上が」です。これで終わります。」

「えー」「えーっと」は言わない。言いそうになったら黙る。

笑わない。にやつかない。

一人一人を約二秒ずつ見つめ、全体を見渡す。（一人に集中しない）

話すときはメモを必ず伏せる。手は腹部の前に位置しておく。

オーディエンス（聴衆）メモ

（ ）さんのスピーチについて

（ ）さんのスピーチについて

（ ）さんのスピーチについて

ふりかえり（聞いてくれた人からの意見をもらって、自分のスピーチについて良かった点、改善すべき点を書きましょう）